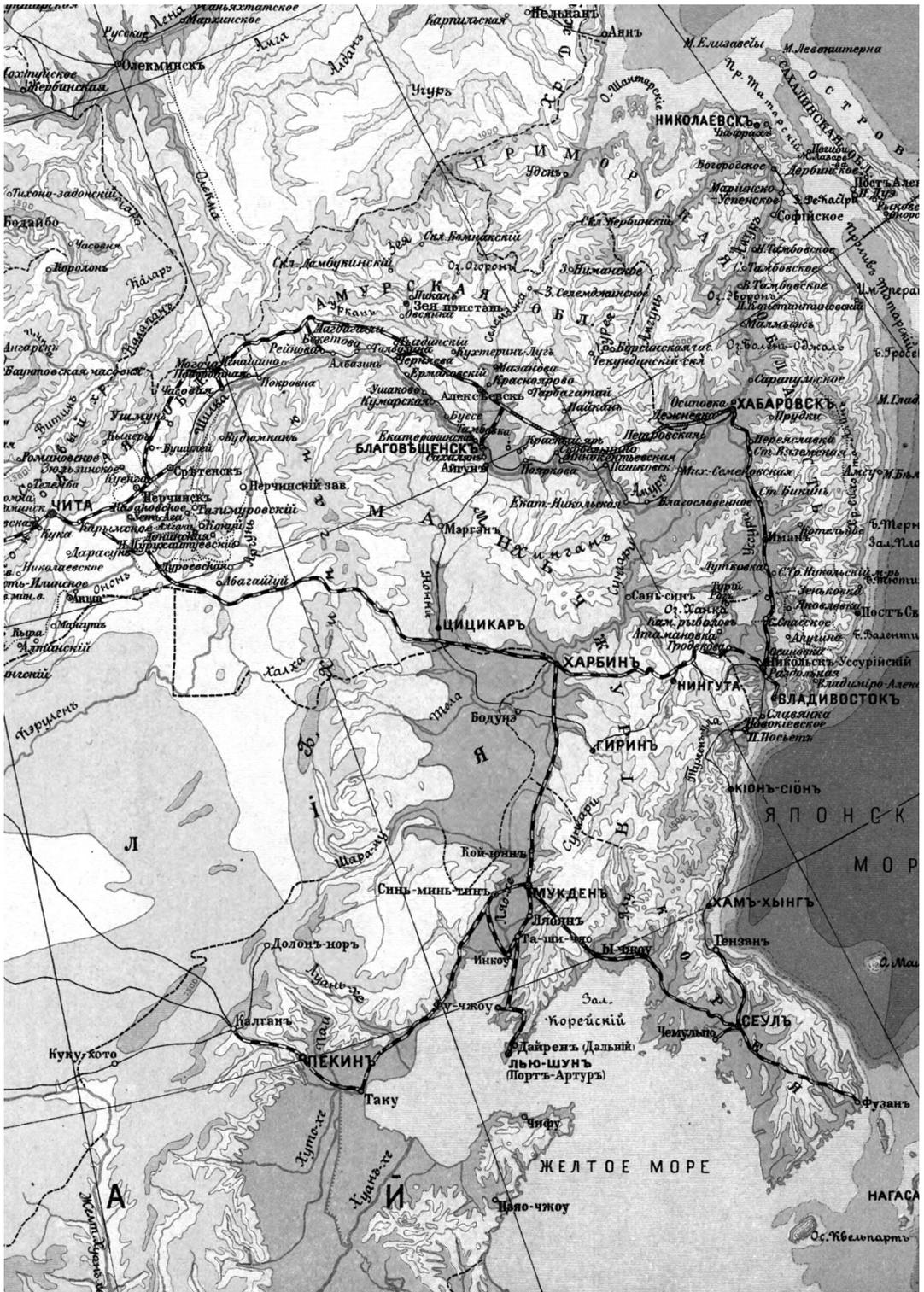


7. 満州と哈爾濱

1912年のロシア全図の満州部分



1. 東清鉄道¹1.1. 東清鉄道関連年表²

1891年	シベリア鉄道建設開始。
1894年	ブリモリーエとザバイカリエのあいだのアムール川（黒龍江）地域を踏査した結果、この地域の鉄道敷設が容易でないことが判明→ウラジヴォストークとチタのショートカットの鉄道建設計画が立てられる。
1895年12月28日	「露清銀行条例」制定。 清国、露清銀行を通じ、日本への賠償金支払のための原資として、ロシアから融資を受ける。 露清銀行が東清鉄道の親会社となる。
1896年6月3日	中国が500万両を出資（預金扱い）→東清鉄道を合併事業のように見せる。 「露清密約」 ³ （「露清同盟条約」または「李鴻章=ロバノフ協定」とも言う）締結。 日本が極東ロシア、清国、朝鮮を侵略した場合の相互援助の約束や、ロシアがチタから吉林省・黒龍江省を通過しウラジヴォストークに通じる東清鉄道（中東鉄道）および東清鉄道のスングリー川渡河地点の哈爾濱（ハルビン）から旅順までの南満州支線の建設に対する清国の許可などが取り交わされた ⁴ 。
9月8日	露清銀行と中国政府、「東清鉄道建設及経営に関する契約」 ⁵ を締結。 第6条第2項「会社ハ其土地ニ関シ絶対的且排他的行政権ヲ有スベシ」。 正文はフランス語で、中国政府は、国内の反対を抑制するため正しく翻訳しなかった可能性が指摘されている。ロシアは鉄道駅を中心に広大な用地を買収、行政権（警察権、駐兵を含む）を行使し、鉄道付属地という植民地システムを生み出した。
12月16日	東清鉄道会社定款の制定。
1897年3月1日	東清鉄道会社設立。
6月	本線部分、踏査・基本測量開始。
8月29日	東清鉄道会社起工式。
1898年1月21日	本線部分、基本測量終了（南満州支線の踏査は1898年春-1899年）
2月	東清鉄道技術標準。 松花江（スングリー川）渡河地点に鉄道建設拠点を建設→のちの哈爾濱。
3月27日	旅順大連湾租借に関する条約の締結。関東州の25年間の租借。
7月6日	東清鉄道南満州支線に関する条約の締結。
1899年2月17日	東清鉄道会社条例第一追加。南満州支線、大連の築港、汽船会社について定める。
8月11日	大連自由港設定に関するニコライ2世の勅諭。
1901年2月21日	東清鉄道本線東部線（哈爾濱－綏芬河）竣工。
7月18日	東清鉄道本線南部線（哈爾濱－旅順）竣工。
8月2日	東清鉄道付属地帯における法権に関するニコライ2世の勅令。
11月4日	東清鉄道本線西部線（哈爾濱－満州里）竣工。
1902年1月14日	全線仮営業開始（露暦1月1日）、東清鉄道会社黒龍江省内の採炭契約の締結。
1903年7月14日	全線営業開始（露暦7月1日）。

¹ 清国は支那とも書いたので、東支鉄道とも言う。またロシア語では Кигайско-Восточная железная дорога と言う。また、日露戦争後のポーツマス条約により日本が南満州支線を譲り受けると、残りの部分は中東鉄道と呼ばれるようになった。この中東鉄道という呼称は上記ロシア語の直訳と思われる。

² 年表は、本講義概要「6. 日露戦争から日露協約へ」の「12. 東清鉄道と東清鉄道南満州支線の建設」の年表と重複部分がある。

³ 本講義概要「6. 日露戦争から日露協約へ」注3参照。

⁴ 同上、注4参照。

⁵ 同上、「資料：東清鉄道建設及経営に関する契約」参照。

1.2. ロシアの鉄道敷設権

1896-99 年、ロシア、清国の対日賠償を支援した代償として複数の条約を締結し、旅順・大連の租借、東清鉄道（本線と南満州支線）の建設・経営権を取得。

1.3. 鉄道付属地の行政権

1898 年 2 月、東清鉄道技術標準。
 用地は線路の両側約 43 メートル。
 将来の発展が予想される駅は線路の両側に約 55 ヘクタール、その他の駅は約 33 ヘクタールを確保。
 満鉄が引き継いだ南満州支線では線路用地の幅は最大 427 メートル、最小で 43 メートルであった。



2. 哈爾濱の建設

2.1. 哈爾濱建設の始まり

1898 年 5 月 鉄道建設局、哈爾濱に設置。

7 月上旬 露清銀行開店。

秋 流入する中国人の居住区（中国大街 Китáйская улица）を埠頭区に設置するため都市計画がスタート。

日本人街（Япóнская улица）もできる（最初の日本人は女郎屋）。

当初の都市計画は平凡な基盤目で、ヴィスタ Vista（見通し景観）もなかった。

新市街（Нóвый гóрод）の都市計画を立案。

街路、広場、寺院、病院、鉄道管理局、墓地などの主要施設の配置を決定。

2 本の幹線道路（車站街 Вокзальный проспéкт、大直街 Большой проспéкт）の交差点にロータリーを置き、ロータリー中央に中央寺院（聖ニコライ会堂）を建設（ロシア建築史上、最高傑作の一つ）。

車站街（Вокзальный проспéкт）は幅員 103 メートルの並木道（бульвáр）。

大直街（Большой проспéкт）は幅員 43 メートル。

2.2. 哈爾濱経済の発展

日露戦争

経済発展の契機＝数十万のロシア軍めあてに商工業者が集まる。

日露戦争後

大豆輸出がさかになる。

第一次世界大戦中

対露輸出の中継地点としてにぎわう→日本の経済進出。

第一次世界大戦後

中国東北地方の農業生産が増大し、大豆油の製油業、小麦の製粉業が急速に成長。

大銀行の支店開設。

1912 年 横濱正金銀行（日系）

1914 年 交通銀行（中国系）

1919 年 東洋拓殖株式会社（日系）

1921 年 金城銀行（中国系）

1923 年 香港上海銀行（中国系）、ナショナルシティ銀行（英米系）

1928 年 チャータード銀行（英米系）

1929 年 大中銀行（中国系）

国際商業都市として発展。

1920年 日露協会学校創設→のち満州国立大学哈爾濱学院と改称。

白系（亡命）ロシア人が唯一政治的・経済的基盤を持つ都市。

3. 満州国と哈爾濱

1931年9月18日 関東軍、奉天郊外柳条溝（実際には湖）の南満州鉄道線路を爆破、中国軍のしわざとして、総攻撃を開始（満州事変）。

1932年3月1日 満州国、建国宣言。

関東軍特務部と満鉄調査部、植民地政策を企画立案。

新京、哈爾濱、奉天、大連などの都市計画を立案。

ロシアの都市計画を継承。

1933年 満州国下でも中東鉄道（日露戦争後、南満州支線が日本に譲渡されたため、ロシア側経営の東清鉄道を中東鉄道と改称）経営はソ連（形式的には中ソ共同経営）が継続していたが、漢字に限りソ連は「北満鐵路」の呼称の使用を許可した。

1935年3月 ウラジヴォストーク、ハバロフスクに満州国領事館が開設される。

3月23日 満州国・ソ連間で中東鉄道（北満鐵路）を有償で満州国に譲渡する協定締結。

ソ連が放棄した理由は赤字経営だったため。

この協定によりソ連は満州国を承認。



南満州鉄道株式会社本社（現 大連鉄道有限責任公司）



下水口の蓋に残る満鉄社章



旧哈爾濱日本国総領事館



旧哈爾濱日本国総領事館であることを示す案内板